



日南市農業再生協議会	100	日南	果樹マンゴー	①販売力の強化への取り組み ②生産力の強化への取り組み ③人材の育成への取り組み	販売額の10%以上の増加	元	3,575千円/10a	11.35	ha	162,370	kg	2,499	円/h	R4	3,933千円/10a	11.35	ha	162,208	kg	2,752	円/h	4	5,348千円/10a	10.67	ha	171,180	kg	3,334	円/h	2,869	円/kg	3,827	円/kg	0.750	4,011	山はまやう旬別販売実績より検証 ・現状値 ・目標値(果実) 3,575千円/10a (販売実績) 406,762千円/11,35ha ・目標値(果実) 3,933千円/10a (販売実績) 446,396千円/11,35ha ・目標値(果実) 3,933千円/10a ・目標値(果実) 3,575千円/10aの増加 ・R4年度実績 5,348千円/10a (販売実績) 570,723千円/10,67ha	機械の導入により、収穫量や品質が向上したほか、高単価の時期に出荷を行ったこともあり、目標を達成することができた。	機械の導入により、栽培環境の改善が図られ、目標を達成することができた。今後も引き続き、収量・品質の向上について関係機関連携して取り組み、更なる産地の収益力向上を目指す。			
西都農産再生協議会	103	西都	きゅうり	施設きゅうり産地の収益力の高い生産者層へ移行 ①環境制御技術等の確立による安定生産の取組 ②病害虫対策の徹底による安定出荷体制の確立に向けた取組 ③生産者相互の技術や生産状況の情報交換の実施による栽培技術及び経営力の向上を図る取組	販売額の10%以上の増加	30	3,367千円/10a	8.75	ha	878,119	kg	336	円	R4	3,704千円/10a	9.83	ha	1,063,687	kg	342	円	4	2,966千円/10a	7.06	ha	598,887	kg	350	円	325	円/kg	291	円/kg	1,117	3,313	千円/10a	-16.0%	検証方法：JA西都ハウス胡瓜部会中央、穂北、都支部支部の販売額にて検証 【(山崎きゅうり販売実績)】	当初より面積等は増加しているが、令和3年度に引き続き、単価が低価格帯で推移しており、作を昇めに切り上げる生産者も多くいて、収量が下がった。今後は例年どおりの定植及び防除管理を徹底し、周年以上の収量を目指す。	低単価が未達の主な要因とされているが、高単価である販売期の収量向上を図る。そのために、産地での防除管理の徹底と基本技術の助行を行い、関係機関と連携して生産者支援を徹底し、目標達成を目指す。	
都市農業再生協議会	108	都市	大根	大根に係る農業機械の導入により作業の効率化を図り量産と品質向上に努めさらに生産面積の拡大に取り組み、販売額10%以上の増加を図る。	販売額の10%以上の増加	1	319千円/10a	45	ha	3,337	t	43.0	円/kg	R4	450千円/10a	65	ha	5,081	t	57.5	円/kg	R4	353千円/10a	63	ha	3,814	t	60.0	円/kg			26.0%		検証方法：R元年販売実績とR4年販売実績にて検証を行う。	事業に切り組んだ当初は、新型コロナウイルスの影響で外食向けの販売が低迷し目標が未達成であった。しかし令和5年度に入り、移動制限が解除になって、外食需要が伸びてきた。令和5年6月期では、目標値を超える販売額を達成する見込みであるため、関係機関と連携して、生産技術の支援等を行う。	新型コロナウイルスの影響で外食向けの販売が低迷し目標が未達成となった。なお、令和5年度に入り、外食需要が伸びてきていることから、安定した販売が行えるよう生産技術の支援を、関係機関と継続して実施する。	契約取引のため価格修正なし				

(3) 契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上とすること

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標												事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
					現状			目標			実績			事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)							
年度	面積	総生産量又は総出荷量	契約取引量	年度	面積	総生産量又は総出荷量	契約取引量	年度	面積	総生産量又は総出荷量	契約取引量	年度	面積	総生産量又は総出荷量	契約取引量						
	ha				ha				ha				ha								

(4) 需要減が見込まれる品目・品種から需要が見込まれる品目・品種への転換率100%

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標												事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
					現状			目標			実績			事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)							
年度	面積	総生産量又は総出荷量	契約取引量	年度	面積	総生産量又は総出荷量	契約取引量	年度	面積	総生産量又は総出荷量	契約取引量	年度	面積	総生産量又は総出荷量	契約取引量						
	ha				ha				ha				ha								

(5) 農産物輸出の取組(直近年の輸出実績がある場合の輸出向け出荷量又は出荷額の10%以上の増加、新規の取組の場合又は直近年の輸出実績がない場合の総出荷量に占める輸出向け出荷額の割合5%以上又は輸出向け年間出荷量10トン以上)

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標												事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
					現状			目標			実績			事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)							
年度	面積	総出荷量又は総出荷額	輸出向け出荷量又は出荷額	年度	面積	総出荷量又は総出荷額	輸出向け出荷量又は出荷額	年度	面積	総出荷量又は総出荷額	輸出向け出荷量又は出荷額	年度	面積	総出荷量又は総出荷額	輸出向け出荷量又は出荷額						
	ha				ha				ha				ha								

R4年度JAの輸出用販売出荷実績を基に検証。  
・現状値  
輸出量 4.2t/50.8ha  
※輸出用米販売量、面積はJA宮崎中央実績より  
・目標値  
輸出量 54.6t/61.3ha  
※輸出用米販売量はJA宮崎中央中期計画、面積は生産者意向調査より算出  
・目標値/現状値  
=54.6t/4.2t→1,200%の増

①産地の現状：宮崎県宮崎市地区。JA宮崎中央宮崎地区のコメ生産部会のうち、輸出用米に取組む生産者で構成。輸出用米への取組みにより新たな販路を拡大し、産地の収益力向上を図り、持続可能な生産性の高い水田農業を目指した。  
②本事業の取組：田植え機、コンバイン等の整備により栽培管理を効率的に行うことで、品質向上を図り、海外への輸出販売、契約販売の拡大、出荷量の向上を図った。また、主食用米・輸出用米等の産地化を図りつつ、ドローンによる防除・除草等の機会の整備により労働生産性の向上を図り、輸出用米の拡大を目指した。さらに、都農組織を通して、リーダーや次世代リーダーを育成するとともに、多様な米づくりに対応した人材のある水田農業組織(指い手)の確保を図った。  
③達成状況：達成

導入した機械により、輸出に向けた産地の拡大が図られた。今後も、各関係機関・団体と連携し、産地の維持・発展を図り、輸出量の拡大に向けた取組を進める。

